



十番組なり

組長退任に当たって

十勝組々長

千葉照映

平成二十四年三月二日、臨時組会（選挙組会）にて推挙され、訳のわからないまま新組長として四月一日就任、翌日の四月二日に仏教婦人会の一夜研修会での挨拶が初仕事。ご婦人二百人ほどを前にしての挨拶、心臓が飛び出るくらい緊張したことは今でも鮮明に覚えてあります。副組長に指名されたときも驚きましたが、比べものにならないほどでありました。全く無縁と思っていた役職をこの私が！

どうしたらいいかわからないまま、三役そして組内の皆様方に支えられながら一年、また一年、何とか過ぎさせて頂きあつという間に四年が経過致しました。

一期だけの「つなぎ」のつもりで引き受けたはずが、驚きの二期目も続投という運びとなりましたが、この度やつと任期満了、八年を過ごさせて頂きました。人生の中で全く想定外の役職でありましたが、人の温かみを感じ取らせて頂いた八年間であります。

また、組長という役職でなければ全道各地での研修会にこれだけ参加することは、間違いなくあったと思っています。

全道総代研修、壮年会研修、仏婦大会、Cブロックでの各研修会にも
全て参加させて頂きました。学ばせて頂く機会を与えて頂いたと感謝
いたしております。

宴会の席やお酒が好きな私にとつて
研修会後の懇親会も楽しい一時で
ありました。

この八年間、困惑と緊張の連続でありましたが、私の人生の中に於いて必ずプラスになると確信しております。

多くの皆様に支えて頂きましたことに重ねてお礼申し上げ退任に当たつての挨拶とさせて頂きます。 合掌

合掌



題字揮毫
妙覺寺住職
脇谷 曉暢 氏

発行所
新得町立教寺院内
十勝組々長事務所
発行人
千葉 照 映

発行人よりひと言！

三月三十一日 組長退任となりました。

8年の間、お世話になり有り難う御座いました。



陰の声（誰にでも出来る事では御座いません、お蔭さま有り難うお疲れさまでした）

今年度の活動を振り返って

十勝組副組長

岩崎教之

『お祝いの会』に感謝

生來の無責任と人任せ、そして加齢による物忘れ（もはや老人性認知症）で、一年を振り返つても「一体何をしてきただろう？ うーん思い出せない」状態ですよ、思い出せないのではなく「自分は何もしていない」のが本当のところですよ。やはり『名ばかりの副組長』でしかありませんでした。懇親会には奮つて参加していましたが、さすがにそのことを書くわけにはいきません。その中、三役主催の行事で特に心に残つたのが『お祝いの会』です。何故かという、我が若院夫婦がその対象者となつたからです。そこで全く私的なことになり恐縮ですが、『お祝いの会』へのお礼を記して、「今年度の活動を振り返つて」に代へさせていただきます。

昨年四月、拙寺に若院が帰山し、寺門の運営に携わることになりました。これでも少し楽ができると喜んだことであります。そして帰山に伴い十勝組の一員となり、早速、総代会に配属になりました。何も分からないことばかりですので皆様のご指導をよろしくお願いいたします。そして更にまた慶びが続き六月には結婚式を挙げました。全くお寺のことなど分からない一般の方が、若坊守として迎えられました。全く違う環境の中、生活に慣れるのにも一苦労です。そんな二人を同朋として迎え入れ、お祝いして下さった十勝組の皆様の温かさが、とても有り難く感じられた「お祝いの会」でした。組内寺院のご慶事を皆でお祝いしようという心が、思いを一つにして組の活動に
取り組もうとする姿勢に繋がるのでは
ないでしょうか。

又、新米を同じ若手仲間

としてお育て下さる『一味会』『七味会』も身丘で心強く、頼りとなる存在です。

も身込で心強く、刺しとかなる存在です。今後とも、皆兼こゝろで尊いことをきながつ、

十勝組の一員として共に歩んで行つて欲しいと願つています。合掌

合掌



「御同朋の社会をめざす運動」（実践運動）スローガン

結ぶ絆から、広がるご縁へ

- From tying bonds to great encounters -

実践運動活動報告

実践運動副委員長 石田智秀



藤島秀天師

平素より、十勝組の実践運動のさまざまな活動へのご理解・ご協力、誠にありがとうございます。特に、各部の部長さまや各担当部員の方々には、春のお彼岸や年度末の諸行事・諸会合などとも重なるご多用の時期にも拘わらず、活動報告をご提出くださり、本当にありがとうございます。

十勝組の実践運動では、各部の精力的な活動を中心に、今年度も多岐にわたる活動を行うことができました。詳細は各部からの報告をご参照ください。

三役主催の諸行事・諸活動としましては、六月二・三日に、研修部とも協力し、藤島秀天先生をお迎えし、僧侶研修会特別講座を開催することができました。

藤島先生は近年ほぼ毎年十勝にお越しくださりご講義くださっています。わたしどもの無理な要望にも、日程の許す限りご労苦をお厭いなく、むしろ快くお応えくださいます。感謝に堪えません。

また、組重点プログラムに基づき、皆さまがお寄せくださった支援物資を東日本大震災の被災地へお送りする活動も続けさせていただきました。そして、今年度は台風十五号の被災地への支援もさせていただきました。ご協力ありがとうございました。

残念なのは、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に鑑み、研修会を中止せざるをえなかったことです。

筑波大学名誉教授の今井雅晴先生には、三月二日に僧侶研修会、三日に聞法の集いで、また「みみすまプロジェクト」の、みかみめぐる先生には、三月十六日に福島の方々の保養をめぐるさまざまな困難や要請される支援についてご講義をいただく予定でしたが、どれも叶いませんでした。

これ以上の感染や、生活を揺るがすような経済的危機が訪れませんよう、切に願うとともにいつでも、お互いさま・おかげさまの心で支援し合えればと思います。

合掌



総代会部活動報告

十勝組総代会部部長 桃井信之

十勝組総代会部 総会・研修会

総代会部では、平成三十一年度の総会・研修会を三月二十九日、帯広別院を会場として開催いたしました。総代会部の総会・研修会は、平成二十六年まで新年度の四月以降に行っていました。四月に入ると農繁期となり参加者が激減するため、平成二十七年より三月下旬に開催しております。今年度の総会では、事業報告・事業計画、収支決算・予算等の審議があり、全て承認されました。

研修会では、浦幌町厚内・太子寺ご住職・皆川隆信師を講師に迎え、「念仏の声を子や孫に」青少年キッズサンガ開催のすすめ」という題でご講演いただきました。皆川師は、十勝組青少年部部長を務めており、日ごろより教区・十勝組内の青少年部諸行事開催を推し進める中心人物として活躍しておられます。

この研修では、各寺院の護持発展に中心的に関わっている総代の皆さまに、新たな時代を担う若き念仏者を育て、寺院活動の礎を強固なものとしていくには、具体的にどのようなことが必要か、どのようなことから始めるべきか等、わかりやすくお話しいただきました。

また、キッズサンガ等の青少年育成活動を始めようとしても、一ヶ寺ではなかなかハードルが高い、とお考えのお寺には、青少年部のスタッフが直接に、あるいは他の寺院の若手僧侶と連携して、お手伝いさせていただくことも可能という、心強いお話しいただきました。

この研修会にご参加いただいた総代の皆さまが、次世代の念仏者を育てる青少年教化活動に、より深い関心を持つていただけることを願ってやみません。



皆川隆信師

本願寺リンク集



門徒総代会全道大会

毎年恒例の「北海道教区Cブロック総代研修会」ですが、今年は「北海道教区門徒総代会全道大会」という形で開催されました。すなわち今年より四年に一度、A・B・Cとブロックごとに総代研修会を開催するのではなく、全道の寺院総代が一堂に会して、互いに情報交換し、交流を深めて全道の門徒のつながりをはかる試みが始まったということです。

この度は、六月二十日、札幌別院を会場として、大谷光真前ご門主ご臨席のもと、約五百人が集い、盛大に開催されました。十勝組からは二十四名の参加がありました。

研修会のご講師には天岸浄圓・行信教校長をお迎えし、「自ら聞法に励む総代となろう」という講題でお話しいただきました。研修会の後、会場を札幌パークホテルに移し、前ご門主様を囲んでレセプションが行われました。参加者一同歓びに満ちた表情でこの大切なひとときを過ごさせていただきました。



大谷真前御門主

壮年会部活動報告

壮年会部部長 上本周司

今年度の壮年会の活動は、まず四月一八日の総会・研修会からはじまりました。総会・研修会には三四名の参加をいただきました。研修会については「手が合わさる」お念仏の生活」をテーマに、光音寺副住職の頼田光明師に、身近な生活のお話から「自然法爾」についてお話していただきました。北海道の方言である「○○さる」(いつの間にか自然とそうしていた、なつていた)という感覚は、北海道で長く暮らしてきた人の多い壮年会員にとっては、たいへん実感のあるものではないかと思いました。

続いて六月一二日には、第二二回となる十勝組仏教壮年会連盟パークゴルフ大会・懇親会を、当番寺の大正寺の壮年会の方々の協力のもと執り行いました。今年も約五〇名と多くの皆様に参加していただき、パークゴルフを通じて交流・親睦を深めていただきました。最高で九〇歳の方から若い僧侶の方まで幅広く参加していただきましたが、皆様それぞれ楽しく過ごしていただけたようです。

年が変わって令和二年の二月二六・二七日には、十勝川温泉観月苑において総代会と合同の一泊研修会が行われる予定でしたが、新型コロナウイルスの流行やそれに伴うイベントの自粛などを受けて、急遽中止することとなりました。申し込みの段階では壮年会・総代会あわせて約九〇名が参加される予定の大きな行事だったので、中止の決断はたいへん心苦しいところではありましたが、参加者のほとんどが高齢者であるという会の性質上、どうしても健康上のリスクがあるため、やむを得ない判断となりました。

一泊研修会については、今年度は参加者を増やせるように各寺の要望を聞いて例年の日程から開催日を変更したりしたのですが、その効果を確認したいこの年に限って急に中止となってしまったので、来年度こそは成功させたいと強く思っているところでもあります。



寺族婦人会部活動報告

寺族婦人会部部長 藤原美香

当会は三月に総会・新年会を開催し、春・夏・秋に研修会を計画し、会員相互の親睦を図りながら活動をしています。

春の研修会は、午前の部として「座談会」を行いました。テーマを「お斎などについて」とし、「グループに分かれ一時間半程の設定でした。同じ十勝管内であっても、門信徒の方々が持ち寄って下さる食材にも違いがあったり、法要の日程・お手伝いをいただく人数・メニュー・季節など、想像以上に多種多様な特色があることがわかりました。あるお寺では「栄養ドリンクを飲みながら頑張ってくれているんですよ」とのお話があり、「ありがたいですね」と皆で頭が下がる場面もありました。しだいにテーマから広がり、子供会のことや掃除の話などに会話が弾み、あと一時間でもそれ以上でも時間がほしいと思いました。

午後の部では「椅子に座ってできる健康体操」の講習を受講し、手のひらが痛かゆくなる程手をたたいたり、思いつき笑ったり、楽しく健康的な研修会となりました。自分自身の健康のためにもなるのですが、参加した皆さんは、お寺に戻って門信徒の方々と一緒に楽しめるヒントをいただきたかったという思いもあったことと思います。

夏の研修会では、西別院さまで開催された「公開講座」を聴講させていただきました。秋の研修会には、講師に太子寺ご住職さまの皆川隆信師をお招きし、午前の部では物故者追悼法要を勤め、この二年間でご往生なされた二名の坊守さまのご生涯を偲ばせていただきました。

午後の部では「子供や年配の方が楽しめるゲーム」のご指導をいただき大変お世話になりました。

北海道教区の役員会へ出席した折、他組の寺族婦人の方が前坊守さまから「私たちは門信徒の方々、婦人会の方々に役職をお願いする立場で、

お願いする立場の私たちが役職から逃げ回することは慎むべきですよ、と言われてきました」とおっしゃっていました。三月五日に予定をしていました総会・

新年会では、新型コロナウイルスの感染拡大を少しでも防ぎたい思いから苦渋の決断ではありましたが中止といたしました。

最後になりましたが、会員の皆さまには助けていただくことばかりで大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

合掌



秋の研修会

婦人会部活動報告

婦人会部部长 鷺岡 康熙



桜庭尚吾師による節談説法

十勝組仏教婦人会連絡協議会の一年を振り返りたいと思います。

四月三日・四日、十勝川温泉観月苑を会場に総会・一夜研修を開催し、一八〇名の会員の参加をいただきました。

三日は午後二時から開会式・総会で各議案を審議・承認の後、空知北組常楽寺住職の山本徹浄師に「みずみずしい感受性をもつて、お念仏してますか?」の講題の元、二日間に渡りご法話をいただきました。音楽家でもある先生と「ひかりあふれて」など数曲を一緒に大きな声で歌い、その中にある味わいをお話頂き、和やかな明るい雰囲気の中での研修会でした。又、夜の会食・宴会ではおいしい料理と、芸達者な会員さんたちの歌や、女装した組長の登場で大いに盛り上がりました。

七月五日には桜庭尚吾師をご講師にお迎えし、第六十四回十勝組仏婦大会・第二九回若婦人研修会を二二五人の参加を頂き帯広別院のご本堂で開催いたしました。

ご講師は節談説法・落語法話や歌を得意とされ、午前は「親鸞さま」のご講題で、聖人がお得度されてから承元の法難までのご生涯を節談を交えながらお説き下さり、お念仏がここに至り届いていることの有難さを学びました。

また、午後からは「念仏しじみ売り」と演目を付けられ、落語演目の「しじみうり」にお念仏のみ教えをアレンジしたお話に、一同聞き入りました。最後は衣体をスーツに着替えられ歌謡ショーになりました。ご講師が作詞された「涙そうそう」の替え歌「南無そうそう」を皆で合唱し大変素晴らしい研修会になりました。

他に五月から六月に五つの支部がそれぞれ支部研修会を開催しています。今年度は役員改選、部員も変わり新体制となります。種々の問題を抱えながらの活動となりますが、事業の充実・発展を願っております。

合掌



第64回十勝組佛教婦人大会



青少年キッズサンガ部活動報告

青少年キッズサンガ部部长 皆川隆信

令和元年度の青少年キッズサンガ部のメインとなる大きな活動は、十二月一日に行われた十勝組青少年キッズサンガ部研修会です。これまでは三年連続でますやパン屋様にきていたで、ピザ作りをメインに実施してきましたが、取り組みの中でスタッフ不足、マンネリ化を感じていました。そこで今年は本来の形に戻して午後から開催の研修会にしました。子供さんが十一名、保護者の方が一名、スタッフ・サポーターが十一名、合計二十三名で行いました。ピザ作りがなかったせいか、大幅に参加人数が減ってしまいました。とても楽しい研修会になったと思っております。

帯広別院を会場に、午一時三十分より開会式を行った後、腕輪念珠作りを全員で体験しました。好きな色のテグスと二十種類以上ある玉から好きなものを選んでいただき、思い思いに腕輪念珠を作りました。最初はテグスを玉にうまく通せなかったり、テグスを上手に結べない子供さんがいましたが、慣れてくるとうまく作れるようになり、手先が器用な子供さんは三つも作っておりまして、一生懸命に作った腕輪念珠を閉会式の時に使ってお参りをしました。その後、三種類のゲームを行いました。子供たちはゲームをしている時が一番楽しそうでした。次に、絵本『ずーっとずーとだいたすきだよ』の読み聞かせを行いました。切ない良い絵本でした。最後に集合写真を撮って、午後四時頃解散いたしました。子供たちの笑顔溢れるとても充実した研修会になったのではないかと考えております。

この研修会で作った腕輪念珠が、お寺にお参りするご縁、お念仏を称えるご縁になることを念じつつ、これからも子供たちのご縁作りである楽しい青少年キッズサンガ部研修会を開催していけるよう精進していきたいと思っております。今度とも皆様のご理解・ご協力のほど、何卒よろしくお願いいたします。

十勝組青少年キッズサンガ部研修会 お寺で作ろう！楽しもう！



研修部活動報告

研修部部长 脇谷 暁融

研修部における二〇一九年度活動報告をします。来年度二〇二〇年度は新たな組体制ですので、現行では事業計画を提示ができませんが、引き継ぐべき内容を示します。

毎年度開催しています「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）推進僧侶研修会」は、二〇一九年九月三十日（月）午後一時半から、会場を例年同様の帯広別院講堂にて開催いたしました。約十五名が受講をしました。

今年度のご講師は高岡教区伏木組から、連研中央講師で同和教育振興会に属しておられる林史樹氏をお招きしました。長く部落問題に関わっておられる中で、私たちの教団の現状を踏まえ、「教団内における『寺中』問題の現実」と題し、今なお寺内・寺中として存在している本坊との従属関係を強いられている寺院の存在（特に北陸・甲信越）とその問題を具体的に課題化した講義を頂きました。

さらに長年継続している「十勝組テレホン法話」は現在も順調に運用中です。テレホン法話の法話順は、別文書にて総会終了後にご依頼をさせて頂いておりますが、直近一ヶ月前には担当者までハガキでご案内をしております。忘備なく受けて頂いております。

なお、組長任期が替わり、来年度の組体制（部員編成）が決まるまでは、現行の部がその任を負っておりますが、その後は新人事の中で当番順が決定することになります。

なお「十勝組第一〇期門徒推進員養成連続研修会（連研）」は、未開催で既に七年が経過しました。連研に対する意識は、本来あるべき運動を担う門徒推進員を育み、話し合い法座をとにもする取り組みが希薄となり、真宗入門講座的発想へと変質することが大きな問題です。またノートEも改訂されます。未だ組全体を積み上げ連研開催が要望される状況にありません。それは組内全体の活動停滞なりかねないことですが、研修部から無理強いしても開催意義がないと考えます。

南無阿弥陀仏



林史樹氏



子ども食堂に参加して

実践運動副委員長 白井 教生



「赤べえ」に感動！優しい心の持ち主だね



今月もありがとう😊 帯広南商業高校クッキング部さん！

十勝組の重点プロジェクトである『貧困の克服に向けて子どもたちを育むために』の取組は、今年度で二年目を迎えました。昨年度は、「身近にある子どもたちの貧困について学ぶ事から始めよう」というテーマで、帯広市内と芽室町で子ども食堂を運営されているWEWとかち代表の若菜順さんを講師にお迎えして、十勝管内における子どもたちの貧困状況に着いてお聞きしました。そして今年度は、WEWとかち主催の食堂にボランティアスタッフの一員として参加し、他のスタッフの方々と共に調理作業を手伝いさせて頂きました。手の空いた時間には常連スタッフの方より、ボランティアの人数や手伝いの頻度、会場のある校区内の状況や通って来られる子ども達の事などについて、色々とお話を下さいました。今後十勝組としても、どの様な取組が可能かを探る機会でありました。



Vihara

TOKACHI

「これからのビハラ」へ理念に立ち返る

大正寺 高田 芳行



「今日は、楽しかったよ。また来てね」「はい、また来ます」
 ビハラ十勝が真宗協会 特別養護老人ホーム「帯広慈恩の里」でビハラ活動をさせていただいて十年が過ぎました。
 ビハラ十勝の活動は「帯広慈恩の里」での毎月のビハラ活動、九月の感謝祭、一月の餅つきのお手伝いです。他に必要に応じて、ビハラ活動の打合せ会、研修会などです。

昨年十月九日に空知南組のビハラ活動を見学させていただきました。場所は岩見沢市栗山町特別養護老人ホーム「くりのさと」でした。内容は盛りだくさんで、始めの言葉・仏教讃歌・聖句朗読・法話・お誕生おめでとう(誕生カード贈呈)・ハーモニカ演奏・ビハラ十勝の歌・手遊び・結びの言葉でした。この集いのために実に多くの人々が準備をして熱心に取り組まれている姿、そして参加されている利用者の方々の表情が穏やかで、初めて伺った私たちも温かい気持ちになりました。この活動は二十六年に及びます。

十月二十五日には十勝組ビハラ研修会(教区ビハラ講座)を帯広別院で開催しました。講師は吉野顕隆氏(岩見沢市栗沢町 賢誠寺住職)でテーマは「ビハラ活動で心の華を咲かせよう」でした。なんびハラの活動についてでした。参加者は「帯広慈恩の里」の職員さん三名を含めて二十七名でした。ビハラ活動の理念のお話では、梯実田和上の「ビハラ活動はいわゆる布教活動とは違います。それは教えを持つていくことではなくて、教えを受けた我が身を病床にある人々のもとに持つて行き、少しでもお役に立とうとすることです。私にとつて何の役に立つかと計算してなす行為ではなく、病む人の『いのち』の傷みに共感し、少しでも我が事として引き受けて行こうとする行為でなければならぬ」。第二十五代専如「門主の「仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心になう生き方を目指し、精一杯努力させていたたく人間になるのです」。

龍大教授 鍋島直樹先生の「すべての命を等しく照らし護る阿弥陀如来の大悲に抱かれて、僧侶と門信徒が共に世の安穩のために及ばずながら精一杯させていたたく御同朋の実践がビハラ活動である」などを紹介しながら、改めてビハラ活動の原点に立ち返る提言をいただきました。

今後「帯広慈恩の里」での活動とビハラに係わる研修と学びを継続しながら、原点に立ち返り「楽しかったよ。また来てね」と思っていたただける活動を推進して行きたいと思ひます。皆さんと一緒にビハラ活動を推進して行きましょう。



令和2年2月の「帯広慈恩の里」ビハラ活動(平林暁仁氏)

私たちの願い
 ともに心身のやすらぎを

笑顔のときも…

「なぜ?」涙がこみあげる。
 たまらず涙のなかの
 つらい気持ちに気づいた。

「ビハラ」はいつも
 あなたとともに…

笑顔が家になると
 いつもの暮らしが暖かくなる。

ひとりのときも…

こころの痛みを
 みんなが分かってくれた。
 困難に向きあえたのは、
 ひとりではなかったから。

「ありがとう」
 そばにいてくれて…

浄土真宗本願寺派ビハラ活動推進委員会



永田 弘彰氏

増山 直樹氏

新たな伝道のスタイルを求めて

真浄寺 永田弘彰
壽光寺 増山直樹

漫才説法コンビシミーズは清水町御影真浄寺の永田弘彰と清水町熊牛壽光寺の増山直樹で活動しています。コンビ名の「シミーズ」の由来は我が町清水町から取っています。二〇一六年に結成し、四年目になります。なぜこのような活動を始めたかと申しますと、楽しく皆で笑いながら仏法を喜び合える場所を作りたいからです。お寺の役割は元々地域コミュニティの中心でもありました。それは沢山の人が集い、顔を合わせ、会話をし、そこには自然と笑顔があつたのだと思います。しかし日々の法務で様々なお宅に上がらせて頂きますと一人暮らしの方も多くなり、会話の機会も減り、自ずと笑うという事も少なくなつてきていると感じます。お寺の原点に立ち返り皆で集って笑いながら仏法を聞ける場を作りたい、これがシミーズの活動目的です。

有難い事に様々な場からお声を掛けて頂き、二〇一九年度は一九カ所に出向させて頂きました。お寺のご法座を中心に、他にも学校関係や清水町の行事、また帯広市菊まつりのステージにも出させて頂きました。

また目標は高くという事で二〇一八年と二〇一九年のM1グランプリにも出場しました。結果はプロには全く通用せず一回戦敗退でしたが、会場の楽屋ではプロの方々の笑いに命を賭けている姿にはもはや感銘すら覚え、「一人に言葉で伝える」という意味では私達僧侶の世界にも通ずる所があり多くの刺激を頂きました。

様々な場所に出ていくようになりましたが私達の活動は漫才「説法」です。単におふざけで笑いを取りに行くのでは無く、仏法を伝える手段として漫才という形式を取っています。

ですからどの場でも私達は一貫して法衣姿でネタを披露しています。

私達の活動が「悲しみ」を「楽しみ」へ変換していき、それがお寺への「親しみ」に繋がり、そして阿弥陀様の「慈しみ」とのご縁に繋がればと思っています。嬉しい「しみ」を沢山作ってきたい、それがもう一つのコンビ名の由来です。

第31回 (MH-1) 漫才法話んグランプリ
2019年 9月30日

出演者プロフィール

シミーズ 永田弘彰（清水町御影真浄寺） 増山直樹（清水町熊牛壽光寺）	Seppo - CCQ 山崎 隆（清水町御影真浄寺） 山崎 隆（清水町御影真浄寺）
遠東サムウェイ 遠東 隆（清水町御影真浄寺） 遠東 隆（清水町御影真浄寺）	みほとけ みほとけ（清水町御影真浄寺） みほとけ（清水町御影真浄寺）
三千大千世界 三千大千世界（清水町御影真浄寺） 三千大千世界（清水町御影真浄寺）	ドドン ドドン（清水町御影真浄寺） ドドン（清水町御影真浄寺）
わろてら1 わろてら1（清水町御影真浄寺） わろてら1（清水町御影真浄寺）	本下朝水 本下朝水（清水町御影真浄寺） 本下朝水（清水町御影真浄寺）
伝道集団アサカラザル 伝道集団アサカラザル（清水町御影真浄寺） 伝道集団アサカラザル（清水町御影真浄寺）	本下朝水 本下朝水（清水町御影真浄寺） 本下朝水（清水町御影真浄寺）

シミーズ 菊まつり
YOUTUBE



一味会活動報告

平成～令和の一味会

一味会会長 窪寺貴洋

二〇一九年四月、役員改選が行われ、今年度より会長という大役を仰せつかりました。しかし、私一人では先輩方が築き、続けてこられた一味会を引継ぎ、ついでに不安で押しつぶされてしまいます。そこで、役員はじめ会員となる十勝組若手僧侶の仲間と共に、とにかく交流を深めていくことを今年度は第一に考えました。結果、当初の年間予定を上回る定例会(九月以降、二月まで毎月開催)を開催することに。毎回担当者を会員に依頼して、発表してもらった形式を取りましたが、チームも担当者に一任する為、どの回の発表者だけではなく、参加した会員からも積極的に意見が

交わされ、盛り上がりを見せ、終り後の懇親会でもその日のテーマで盛り上がりつづけています。

また夏の東西ソフトボール大会に加えて、冬の東西交流では初の試みとなる「フットサル大会」を開催し、十勝管内東西本願寺の若手僧侶同士の交流を深めることが出来ました。

これら一味会の活動は各御寺院様のご理解、ご協力あつてのことと思っておりますので、これからも引き続き宜しくお願い致します。

合掌

東西フットサル大会



七味会活動報告

若坊守会七味会会長 白井 郁江

令和になり七味会は、新しい会員が増えて現在十六名で活動しております。お子さん連れの若坊守さんが多く、さらに活気のある会になってきました。

春の研修会は六月二十一日に、お寺探訪で仏照寺様をお訪ねしました。住職様のお話の中に初参式、成人式と人生の節目のご縁作りや毎年百名を超える寺子屋塾のお話など、これからお寺を担う私たち若坊守にとって、とても参考になるお話をいただきました。報恩講直前の大変お忙しい中でも快くお迎えいただき本当に感謝しております。有難うございました。

秋の研修会もお寺探訪で光明寺でした。七月に寺院新築落慶法要を勤修した事もあり二度目の訪問になりました。住職よりお寺の沿革や新築工事に至るまでの過程をプロジェクトを用いながらお話をいただき、その後は、寺院内見学をいたしました。この日は特別に時間の経過が早く感じられ、茶話会後も名残惜しい感じでしたので、更に場所を移し、『ちららマルシェ』でお買物カフェでお茶をいただくなど、有意義な楽しい時間を過ごさせていただきました。

冬の研修会は十二月六日に内藤生花店様の二階をお借りして、マミフラワーデザインスクール吉田倍子先生を講師に『年末年始に飾れるフラワーアレンジメント』を教えてくださいました。さすがは若坊守さん達です。迷いが無くスピーディーなハサミさばきとデザインには先生も驚きでした。お花の水揚げの必要性や茎の切り方など、普段お花と接する事の多い私達には大変有難いお話ばかりであり、また教えていただきました。ありがとうございました。

今年度をもちまして白井は役員任期終了となります。他の役員、会員の皆様に支えられながら多くの事を学ばせていただきました事を感謝申し上げます。有難うございました。

合掌

冬の研修会



令和元年度お祝いの会

十勝組副組長 桃井直行



松浪ご夫妻

臼井教生住職

臼井公敏前住職

岩崎ご夫妻

令和元年十二月一七日午後六時。
ホテル観月苑において十勝組

「お祝いの会」が開催されました。

この度のお祝いの対象者のうち、

光明寺 臼井教生様(住職継職)

臼井公敏様(住職退任・本堂新築)

真徳寺 松浪賢誓様・珠加様(結婚)

光教寺 岩崎教大様・睦美様(結婚)

の皆様がご出席。

他、対象者は

妙覚寺・脇谷暁融様・脇谷暁暢様

(住職継職・住職退任)

浄永寺・斉藤顯也様・斉藤秀芳様

(住職継職・住職退任)

でありました。

当日は二六名の参加者(ちよつと少ないのは・皆さんちゃんと参加して下さいよ)

があり、組長挨拶

(ポケットマネーからのお祝い品持参)や

お祝い対象者のご挨拶の後、

カンパ〜イ。祝宴が始まり、

和気あいあい、老若男女?が

差しつ、差されつ、楽しい宴を過ごしました。

特に美味しい日本酒・ワイン(お祝いの差し入れ)を一杯頂き、皆さん大満足のひと時でした。(それ...私だけか?)



新型コロナウイルス感染症に関して

新型コロナウイルス感染症に関連して

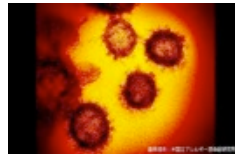
法務省からも 人権擁護啓発のお知らせが出ております。

新型コロナウイルス感染症に関連して誤った情報に基づく不当な差別、偏見、いじめ等があつてはなりません。

関係省庁からの発信に基づき、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報入手するように努めましょう。

新型コロナウイルス感染が国内でも拡大している中で、感染された方やその家族、病院関係者、中国から帰国された方、外国人の方などに対する不当な差別、偏見、いじめ、SNSでの誹謗中傷などがあつてはなりません。

あらためて、不確かな情報に惑わされて人権侵害につながる事がないよう、正しい情報に基づいた冷静な行動をいたしましょう。



新型コロナウイルスを含む感染症対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む咳エチケット」です。

①手洗い 正しい手の洗い方

① 流水でよく手をぬがした後、石けんをつき、手のひらをよくこすります。
② 手の甲をのばすようにこすります。
③ 指先・手の間を念入りにこすります。
④ 指の間を洗います。
⑤ 親指と手のひらをねじり洗います。
⑥ 手首も忘れずに洗います。

石けんで洗い終わったら、十分に水で洗い、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

②咳エチケット 3つの咳エチケット

電車や職場、学校など人が集まるところでやろう

① 何もしないで咳やくしゃみをする。② 咳やくしゃみを手でかき止める。③ マスクを着用する(口・鼻を覆う)。④ ティッシュ・ハンカチで口・鼻を覆う。⑤ 袖で口・鼻を覆う。

正しいマスクの着用

① 鼻と口の両方を確実に覆う。② ゴムひもを耳にかけ、隙間がないよう鼻まで覆う。

結ぶ絆から、広がる絆へ

ご慶寿

光明寺 白井教生様(住職継職)

白井公敏様(住職退任・本堂新築)

真徳寺 松浪賢誓様・珠加様(ご結婚)

光教寺 岩崎教大様・睦美様(ご結婚)

妙覚寺：脇谷暁融様・脇谷暁暢様(住職継職・住職退任)

浄永寺：斎藤顯也様・斎藤秀芳様(住職継職・住職退任)

ご訃報

平成三十一年 四月十六日 往生

壽光寺 第二世坊守

増山俊子様 行年八十六歳

令和二年 一月三十一日 往生

眞徳寺 第二世坊守

合掌



親鸞聖人御誕生 850年 要法讃慶 立教開宗 800年

Joint Celebration 850th Anniversary of Shinran's Birth & 800th Anniversary of the Establishment of the Jodo Shinshu Teaching

2023 (令和5) 年

【第1期】3/29(水)～4/3(月) 【第4期】5/6(土)～5/11(木)
【第2期】4/10(月)～4/15(土) 【第5期】5/16(火)～5/21(日)
【第3期】4/24(月)～4/29(土)

編集後記

第三十八号十勝組だより

発行にあたり

コロナウイルス発生により、世界規模で社会が混乱しておりますが、各寺院においても対応に追われる日々が続いておられる事と存じます。一日も早く収束する事を願っております。

マスク、除菌アルコール等の確保も難しく、社会の流れの速さに翻弄されるばかりです。皆様にはくれぐれも健康に気をつけて下さいませ。

各部部長：会長の皆様のお力添えを頂き、本当にありがとうございます。

石田智衆氏のご尽力で十勝組HPが出来あがっています。左記QRコードを作成しましたので、そこに簡単に移動する事が出来ますので携帯電話(スマートフォン)の方はカメラを起動し画面の黄枠を画像に合わせワンタッチで御利用頂けます。

広報部長 平林暁仁 合掌

十勝組QRコード

